



# 新聞まさひこ通信

## あけぼの曙

発行責任者  
福岡県議会議員  
新開昌彦

福岡市早良区曙 2-1-35

Vol.36 平成 19 年 8 月 24 日発行

## 議会報告

選挙後初の定例会(予算議会)が、6月20日から7月19日の日程で開催されました。

一般会計総額1兆5327億2224万円(前年度当初比1.4%増)の当初予算案など45議案が可決成立しました。

これまで公明党福岡県議団が求めてきた政策が、新しく事業化されました。

その主なものは、若年者に対する雇用対策、児童手当の乳幼児加算、乳幼児医療自己負担無料化、障害者自立支援の充実(負担軽減、授産施設工賃水準向上)、がん対策推進、多重債務問題対策、不登校・中途退学対策、入札・契約制度の改革推進などが事業化されることになりました。

### 一般質問【7月3日、私の質問内容】 青色防犯パトカーの普及のため、助成金、申請の簡素化、交番などとの連携を強化すべし。

知事答弁 地域防犯ボランティアの助成は経費の一部(上限10万円)を補助する。

警察本部長答弁 青色防犯パトカーは、非常に顯示効果が高く犯罪抑止効果が期待でき、地域の安全対策に非常に有効。パトロール実施者講習は、警察から地域に出向くなど受講しやすい環境を整える。申請の簡素化については、道路使用許可、設備外積載許可は簡素化に難色を示しました。申請書類は警察のホームページに掲載する。警察、交番と地域の密接な情報交換を行う。

教育長答弁 小中学校を車庫として登録できるように市町村に働きかける。

### 療育手帳の判定基準が全国統一されていない。手帳がなくても相談できる体制を充実すべし。

知事答弁 判定基準が各県で違うのはおかしい。統一できるよう全国知事会において提案していきたい。



「原西校区視まわり隊」の金子滋代表と懇談

手帳の有無に関わらず障害者の支援のため発達障害者支援センターを4箇所目を設置しました。障害者就業・生活支援センターは県内に13箇所設置する。

### 防災メール・まもるくんのシステムを改修後し、光化学スモッグや原発事故などの情報を県から登録者全員に直接情報提供すべし。

知事答弁 今回のシステム改修によって県民生活に重大な影響を与えるような事態が発生する場合、県から登録者全員に直接情報提供する。



## 画期的な障害者の就職支援を視察

沖縄・NPO 法人ミラソル会

5月30日、私たち公明党福岡県議団は、沖縄県那覇市にあるNPO法人・ミラソル会の**就労サポートセンター・ミラソル**を視察しました。

3障害すべてを対象に、就労移行支援、就労継続支援のほか、職業能力開発校委託訓練などをしており、平成18年度の就労移行の実績は18人。本年度は4月、5月の2カ月だけで、既に11人の就職が決まっています。



A君は知的障害を持つ19歳。昨年3月に養護学校を卒業後、5カ月の訓練を経て、大手スポーツ量販店に就職。お客さんに笑顔で挨拶しながら、店の掃除などをして働いていました。

就職が次々と決まっていく秘訣について、ミラソルの一杉光男（ひとすぎ・みつお）理事長は4点を挙げてくれました。

### 就職を決める4つの秘訣

1点目は「ゴールからのスタート」という考え方。これは、障害を持つ方が、課題を一つひとつ乗り越えて、最後の結果として就職するというのではなく、障害を持っている今現在の能力でできる仕事をすればよいという考え方。

1980年代からアメリカでとられている方法だそうです。

2点目は、ジョブコーチが一人ひとりの障害者について能力の評価、職場開拓、コーディネート、定着支援まで一貫して取り組む。

3点目にSSTと呼ばれる認知行動療法。雇用面接や販売接客などのシミュレーション訓練に徹底して取り組んでいます。

最後に「ちゅらライフ」と呼ばれる働く意欲を持たせるための独自のプログラム。これは、働く夢が実現できたら、というイメージを膨らませ、障害者のモチベーションを高めるもの。やりたい仕事や旅行したいところ、欲しい小遣いの額などを絵に描いてもらい、これからの人生計画の具体的なイメージを作ってもらう。

「就労したい」人の場合は、さらに、職員と一緒に1年間の就労移行計画を立て、就職への一歩を歩みだすというものです。



8月22日党本部で開かれた全国代表協議会



参議院議員/公明党参議院幹事長

**こば 健太郎**

KOBAKENTAROU.JP

7月29日、第21回参院選挙が、行われました。

公明党は、選挙区2議席(東京、大阪)、比例区は7議席、計9議席を獲得。比例区**こば健太郎氏**は、皆さまの絶大なるご支援のおかげで70万6993票を獲得し4期目の当選しました。

全国県代表協議会で太田代表は、先の参院選について「安倍政権への強い逆風が吹く中、厳しい選挙情勢にもかかわらず、炎天下で血のにじむような献身的なご支援をいただいた、党员・支持者の皆さま、とりわけ創価学会員の皆さまに、心から感謝と御礼を申し上げます」と謝意を表明するとともに、埼玉、神奈川、愛知の3選挙区での惜敗と、比例区での得票数が776万票にとどまったことに触れ、「今回の結果を次の勝利への教訓として生かし、一段と強い公明党をつくり上げていく」と決意を述べた。

公明党が比例区で前回から85万票減らしたことについて「公明党が、与党内で存在感を示し得なかった」として、「今後は、政権に問題が生じればいち早くチェック機能を働かせ、踏むべきブレーキをしっかり踏む、政権のめざす方向と国民のニーズにズレがあれば軌道修正してバランスを保つといった、本来、国民から期待されている公明党の役割をさらに鮮明に果たしていきたい」と力説した。公明新聞から抜粋